

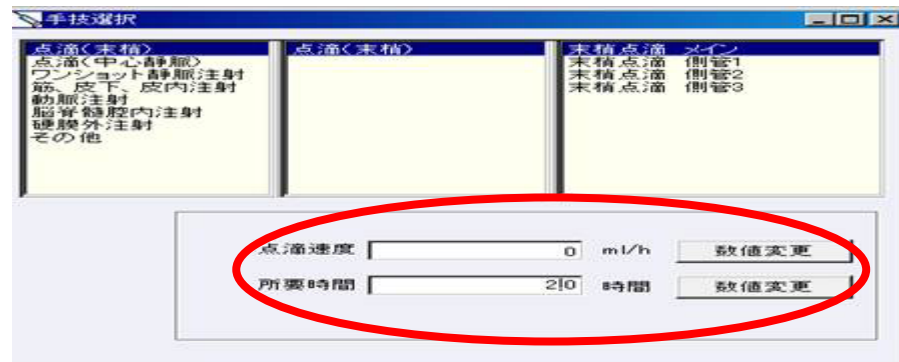
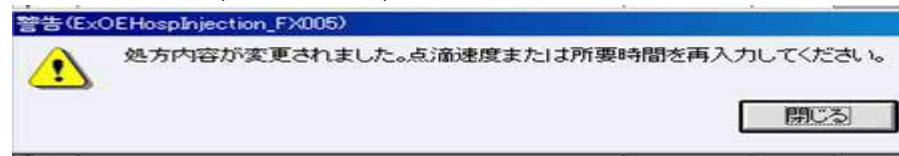
# 薬剤部だより No.245

山口大学病院薬剤部 2010.6.17



## 注射速度再計算の不具合を改善

これまでは注射オーダ発行後、輸液などの投与量を変更しても点滴速度や所要時間の再計算が行われず、間違っ て投与される恐れがありました。この問題を解決するために、投与量が変更されると「警告」が表示されるようにしました。警告画面を閉じると手技選択画面が表示されますので、そこで点滴速度や所要時間を入力しなおして下さい(下図参照)



## 注射手書き処方箋の運用変更

2009年9月の新システム導入以降、手書きの緊急注射処方箋はカルテ用(ピンク色)のみ薬剤とともに送付していましたが、しかし、会計上の問題が発生する恐れがあるため、この度実施用(黄色)も合わせて送付することにしました。

今後の運用ですが、黄色の処方箋は実施後必ず薬剤部に返却し、ピンク色の処方箋はカルテ用(スキャナー取り込み等)にご使用下さい。

## コンクライト製品切り替えのお知らせ

薬剤部だより No.243でお知らせしましたコンクライト製品製造販売中止に伴う代替薬への切り替えを、7月1日から在庫がなくなり次第順次行います。

- ・ コンクライト Ca (新)塩化 Ca 補正液 1mEq/mL
- ・ コンクライト Na (新)塩化 Na 補正液 2.5mEq/mL
- ・ コンクライト Mg (新)硫酸 Mg 補正液 1mEq/mL
- ・ コンクライト PK (新)リン酸カリウム補正液 1mEq/mL

## 「セファランチン注」自主回収のお知らせ

「セファランチン注」の定期的安定性試験において不溶性異物が認められたため、全てのロットが自主回収となりました。一時出荷停止となっており、供給再開の目処は立っていません。従いまして、「セファランチン注」の処方オーダを一時停止しています。他の薬剤による代替治療をご検討下さい。今後新たな情報が入り次第お知らせ致します。

## 血中濃度測定法の変更

昨年11月に新しく薬物血中濃度測定機器(アーキテクトi1000SR)が導入されたのに伴い、「ジゴキシム」、「バンコマイシン」、「テオフィリン」、「シクロスポリン」、「バルブロ酸」、「フェニトイン」、「フェノバルビタール」の測定法を変更することとなりました。従来の測定試薬がなくなり次第、アーキテクトi1000SRを用いた測定に変更します(9月頃の予定)。提出血液量、採取スピッツ等に変更はありません。

## 抗がん剤の投与開始時刻入力をお願い

製剤室では、細菌汚染及び抗がん剤の安定性低下を防止するため、混注は投与開始の直前に行っています。製剤室への混注を依頼される場合は、以下の点にご留意下さい。

- ・ オーダ入力の際に正確な実施時刻を入力する
- ・ 当日の血液検査の結果で実施を決定する場合は、「結果確認後連絡」などのコメントを挿入する
- ・ 中止が決定した際には速やかに電話連絡(2666)し、オーダを削除する

時刻が入力されているオーダの混注を優先します。当日の血液検査の結果、化学療法を実施される場合は、開始時刻まで十分な余裕をもって、ご連絡ください。

## 血糖測定試験紙の変更

オートディスクセンサーが6月8日(火)からブリーズ2センサーに変更となりました。従来のものより測定時間が短くなります。

## 削除薬のお知らせ

- ・ 「マスキュラックス10mg」の在庫がなくなったため、5/24でオーダ中止
- ・ 「ノリアップ250μg」の在庫がなくなったため、6/1でオーダ中止
- ・ 「アンダーム軟膏10g」の在庫がなくなったため、6/4でオーダ中止